特別連載 知って納得! 第6回

Office活用セミナー

マイクロソフト社セミナーで大人気! Office指南のカリスマ・住中先生が、パソコンをビジネスに活かすための心構えをわかりやすく解説する!!

執筆者 住中 光夫
システムリサーチ&コンサルト株式会社
代表取締役

マイクロソフト社のセミナーでは、多数の講師陣の中から3回連続で受講者より№1の評価を受けている。企業研修、書籍の執筆など、Officeソフトにかかわる多方面で活躍中。www.suminaka.comも要チェック!

マルチメディア情報がコミュニケーションを変える

右脳に訴求するマルチメディア情報

人の脳は、大きく左脳と右脳とに分けることができます。左脳は、論理的な人間の脳で、ものを考えたり言葉や数字などを扱う脳で、それに対して右脳は、五感を司る動物的な脳だそうです。

この左脳と右脳をコンピュータに例えると、情報を処理するスピードは、右脳のほうが数万倍速く優れているそうです。

数字や文字を論理的に考える左脳は、主にテキストファイルを扱うMS-DOS時代のパソコンみたいなもので、五感にかかわるマルチメディア情報を扱う右脳は、まだ人間がつくったことがない超スーパーコンピュータのようなものといえます。

そのため、文字だけのワープロや数字だけの表計算ソフトのシートの情報であれば、低速な左脳で十分とのこと。しかし、写真や絵やグラフ、音声や映像などのマルチメディア情報は、右脳がフルパワーを発揮して認識しようとするといわれています。

つまり、言葉や数字とマルチメディア情報を組み合わせた情報は、左脳と右脳の両者が一緒になって理解しようとしているのです。それが「わかりやすい」ということにつながります。

逆に、よく伝え、よく理解してもらうには、言葉や数字とマルチメディア情報を組み合わせた情報が不可欠ということになります。

Officeソフトでの利用

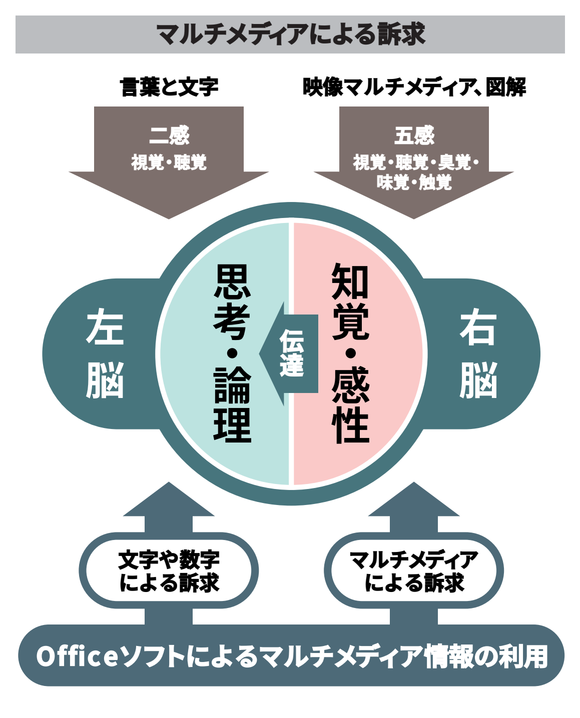
そのために、Officeソフトでは、WordであれPowerPointであれ、Excelであれ、すべて写真や映像などを利用できます。

Excelで見積書の商品名をクリックすれば、その商品の映像が表示される。または、あるセルの数字をクリックすればその数字の説明音声が出る、なんていうのはいとも簡単に、それも7年も前のバージョンからできていました。

ではなぜExcelなどにそのような機能があるかというと、それはコミュニケーションのためなのです。

ひと目見てわからない数字の羅列を、グラフ化することによって確認できるようにし、またその数字の説明を文字のコメントで表わし、ニュアンスの伝わる音声で説明する。また必要であれば、その数字に関する写真や映像の情報を添付する。このようなマルチメディア情報にて、よりコミュニケーションを強化しようとするものです。

Excelがそうであれば、プレゼンテーションソフトであるPowerPointなどでは、写真や映像、音声などを駆使してプレゼンを行なうことが、より良い伝達につながります。

そして何よりも重要なことは、マルチメディア情報は取り扱って面白い、楽しいということです。楽しければ、情報を作成加工することが進み、より良いものを作成しようとします。

「好きこそものの上手なれ」という格言がありますが、マルチメディア情報はそのことを実現するものです。